

(1)新入寮生の土佐寮紹介

『 土佐寮での生活 』

東京経済大学1年

東京に進学することには期待だけではなく不安もまたつきものだと思うので、土佐寮での暮らしや日々の生活について知っていただければ、少しだけでも不安の解消に繋がるかもしれないので参考にいただければいいと思います。

土佐寮は井の頭公園に隣接しており、三鷹市の住宅街に位置しています。また、最寄りの駅が吉祥寺駅なので、休日は吉祥寺で買い物やおいしいものを食べたりするのもいいですし、吉祥寺駅は渋谷・新宿などにぎやかな場所にもアクセスしやすいので少し足を延ばしてみるのもいいでしょう。高知県のようなのんびりした雰囲気を感じたくなつた時には、井の頭公園に隣接しているので公園の自然の中でゆったりと過ごすといいかもしれません。

寮の部屋は、相部屋で不便だという印象を持っている人が多いかもしれませんが、その点でいえば土佐寮は個人部屋で一人でエアコン、WiFi、ロッカー、勉強机が備え付けられており不自由を感じることはなく、一人暮らしで気になる電気代や水道費なども寮費に組み込まれており快適に生活できます。土佐寮では朝、晩と食事がついておりバイトなどで帰りが遅くなる場合は、あらかじめ取り置きを頼んでいれば時間外でも食事をとることが可能です。

大学では、自分が積極的に取り組みたい分野や全く知らなかった分野まで幅広く学ぶことができるのでサークルやバイトに勤しむのもいいですが、大学という施設のサポートを利用できるのは大学在学中だけなので積極的に利用するのがいいでしょう。大学では基本的に自由に授業の予定がたてることができます。昼食は食堂がいっぱいだったりするので、大学生協などで購入して食べたりしています。

さて、ここまで土佐寮、その周辺、大学について紹介してきましたが私自身土佐寮に入ってやはり同郷の人たちが共に暮らしているという安心感が一番強く、困ったことなどがあればすぐに相談できますし、なんととっても土佐寮を惜しみなく話せるということが土佐寮の強みではないかと思います。一人暮らしはやはり面倒なことや孤独を感じたりするので、私自身土佐寮に入寮して、不自由なく、この生活に満足しているので入寮することをお勧めしたいです。

先にも述べたように、この文章を読んで上京や寮への不安を解消し、期待に胸を膨らませていただければと思います。

『 土佐寮での新生活で感じたこと 』

早稲田大学 1 年

上京し、土佐寮に入寮してまだ2カ月程しか経っていませんが、土佐寮での生活や、大学生活について少し記そうと思います。

私が最初に土佐寮の存在を知ったのは、高校3年生の時に担任の先生が「土佐寮は寮費も安くて、閑静な場所にあるき、東京の大学へ行く人は考えてみて」と言ったのがきっかけです。入寮を申し込んだときは「せいぜい一人暮らしするより負担が少ないくらいやろ」と思っていました。しかし、いざ入寮してみると、自炊などの負担が少ないだけでなく、夕食の取り置きなどの制度も充実しており、栄養もバランス良く取れ、下手に一人暮らしするよりずっと良いと思えます。また、井の頭公園に隣接しており、担任の先生が言っていたように、とても閑静な場所にあり、勉学に励むには最適な環境です。しかも、3分もあれば気分転換に公園に散歩に行くこともできます。

通学については少しだけ不便に感じます。私は早稲田大学に通っていますが、最寄り駅である吉祥寺駅から早稲田駅まで、本来なら25分程度です。しかし、実際、45分かかります。いかんせん、寮から駅までが遠く、歩いて20分弱かかります。雨の日は、特につらいです。

大学は、高校とうってかわって全く自由です。自分でとりたい講義を選択することができ、また、日本各地から学生が集まるので、とても新鮮に思えます。私自身、最初は知り合いがほとんどおらず、友達ができるか不安でしたが、いざ入学してみると、語学クラスやサークルで、すぐに友達ことができました。また、日本各地から学生が集まる、と記した通り、方言もたくさん聞けます。なかでも土佐弁は結構友達にも突っ込まれ、「なにしゆが？」とかは最初は絶対に理解されません(笑)とにもかくにも、大学生活はさまざまな経験ができ、楽しいことがたくさんあります。

最後に寮生活におけるメリットとデメリットについてですが、メリットは上に記した通り、「寮費が安くて、閑静な場所に位置している」ことに加え、門限がないことです。大学の友達の寮などは門限が設けられており、結構しんどいみたいですが、土佐寮の場合は、門限がないため、少し夜遅くなっても大丈夫です。デメリットは、前述のように、「駅までが遠いこと」くらいかなと自分では思っています。風呂掃除が月2回ほど担当になることがあり、結構しんどいですが、自治寮であるゆえ、それは仕方ないことだと思っています。

これまで大学生活や土佐寮での生活について記してきました。なにしろ冒頭で書いたように、まだ2カ月ほどしか経っていないため、まだまだ気づいてないことも多いと思いますがこれを参考に土佐寮について関心をもってくれる人が1人でもいれば幸いです。

(2)在寮生の土佐寮紹介

『 土佐寮と大学生活 』

早稲田大学3年

土佐寮に入寮して早くも2年以上が過ぎ、大学生活も折り返しを迎えました。この2年余りを振り返り、土佐寮と大学生活についてご紹介したいと思います。

入学当初は高知県からの上京ということもあり大学生活が不安でしたが、土佐寮には高校時代からの友人もいますし新しい友人もできたので、そのような不安はすぐに払拭されました。近いバックボーンを持つ友人たちと共同生活を送るというのは、一人暮らしでは得難い安心感であると思います。最寄駅の吉祥寺駅はアクセス面での利便性が良く、東京のあらゆる場所にそれほど時間をかけずに向かうことができ、遊びや就活といった点でも有利なのではないでしょうか。寮から早稲田大学までは40分ほどです。通学に1時間以上もかけている学生もザラにいることを考えれば、非常に恵まれた環境と言えるでしょう。

土佐寮は学生寮ですが、他の学生寮にありがちな過度な交流や飲み会への参加強要といったことは全く存在しません。寮生としての義務は必要最小限ですので、寮生は過度に束縛されずに自由な大学生活を謳歌することができます。一方で友人たちと談笑したり遊びに出かけることも頻繁にあります。つまり、寮生の自由を最大限に認めてくれる、レッセフェールな寮であると言えます。

大学生活は、高校までと違ってあらゆる物事を自分で決めることになります。授業の選択や、バイト・サークル・資格の勉強など、やれること・やるべきことが非常に多く戸惑ってしまいます。私は大学の勉強をそれなりにこなしつつ、サークル活動に熱心に取り組んできました。大学でのコミュニティは多くがサークルに依存することになるので、サークル選びは慎重にやらなければなりません。それに比べれば、バイトは特段の理由が無い限りやらなくても良いでしょう。多額の学費で買った大学生活という貴重な時間ですから、バイトで安売りするよりも他の有意義な活動に使うべきです。

3年生からはゼミやインターンシップが始まりました。大学では常に新しい領域に挑戦していかなければなりません。そのためには生活の基盤が整っていることが大切です。私の周りでも、一人暮らしで自堕落な生活を送っている学生がたくさんいますが、土佐寮では朝食・夕食の時間や風呂の時間が決められていることにより、自分を律することができます。また他人との共同生活を通して、社会に適合していく能力も養えるでしょう。土佐寮での生活は今後の人生の大きな糧になります。

以上、乱文でしたがお付き合いいただきありがとうございました。

(3)卒寮生の思い出

『将来、役立つ自分探しの場』

昭和 56 年卒寮生

私が、入寮したのは、昭和 52 年春。初めての東京での一人暮らし。恐る恐る木造の旧館の一室に入室しました。まだ、同室の相手は入っていません。一人で不安な夜を迎えていた時、代わるがわる、先輩たちが部屋を訪れ、「よう来たねや、疲れたろう！風呂は新館の奥にあるき、入りや。」「俺は、3年生の〇〇や。△△出身や。困ったことがあったら、何でもゆうてきいや。」不安な夜は一気に吹っ飛びました。そして、徐々に、木造の寮舎は、同期の入寮生で満たされ、横のつながりも増え、縦横双方のつながりの中での生活を送ることになりました。同じ釜の飯を食い、裸の付き合いをする生活。相手の温かい言葉を受け、それにありがたく応えていく度、絆は深まっていきました。出身高校別の飲み会もありました。それまで、引っ込み思案だった性格は、次第に、前向きになってきました。気が付けば、みんなで町内の清掃や運動会やお祭りにも参加もしていました。酒を飲んで騒いでも、近所の人は大目に見てくれ、挨拶もしてくれました。春の寮祭では、赤ふんどしで町内を練り歩き、世話になった店の前ではエールをきりながら、井の頭公園の池に飛び込みました。節目の行事の際には、県出身の国会議員の方や秘書の方、県の東京事務所勤務のOBもお祝いによく来てくれました。また、関東在住のOBの集まりにも、呼ばれたり、高知で初めて開催された土佐寮のおんちゃん会総会にも詰襟の学生服を着て参加もしました。この時は、市カ谷の砂土原時代の土佐寮(通称“砂土原寮”)、南千束時代の土佐寮(通称“千束寮”)、そして現在の通称“井の頭寮”の各OBや寮母さんも参加しており、総勢120名位が集まっておられました。誠に歴史を感じる集まりだったことを憶えています。

私が在寮時、みんなで話をし、昭和57年には井の頭移転30周年を迎えるので、記念式典をやることと同時に、記念誌兼土佐寮史を発行しようということになり、その編纂作業を進めている時に、“感激なき人生は空虚なり”という言葉に出会いました。これは、旧制高知高等学校初代学長の言葉ですが、私のその後の人生に大きな影響を与えてくれました。現在、土佐育英協会のホームページに掲載されている新入寮生の言葉の中にもありますように、“新たな自分を見つけられる”、“一緒に成長できる”そんな寮生活の場であれば、感激多き生活が送れ、就職後や起業後の長い人生のためにもきっと有意義であるのではないのでしょうか。

育英事業の学生寮というと、まずは、住む場所の安価な提供という面が強く要求されます。この面につきましても、土佐寮の関係者やOBの大勢の方々のご尽力によって、既に確保されております。その後は、いかに存続させていくかが問われます。それには、当然、育英協会や寮OBの方々のご尽力も必要ですが、“自治寮”を代々掲げてきた寮生の力抜きには語れません。

現在、入寮されている皆さんは、アパートより寮が良いという方がほとんどだと窺っております。アパートとは違う、“学生寮の在寮生一人ひとりにとっての良さ”がいつまでも続きますように！

(注) この当時は、まだ木造の寮舎があり、二人部屋となっていました。

現在は、鉄筋コンクリート3階建で、個室になっています。